

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 6 日現在

機関番号： 24302  
研究種目： 基盤研究（C）  
研究期間： 2010～2012  
課題番号： 22520258  
研究課題名（和文） アメリカ文学と「老い」の政治学

研究課題名（英文） Politics of Aging in American Literature

## 研究代表者

金澤 哲 (KANAZAWA SATOSHI)  
京都府立大学・文学部・教授  
研究者番号： 70233848

研究成果の概要（和文）：「老いの政治学」とは、1990年代からのアメリカにおけるフェミニズムの立場からの新たな「老い」理解を踏まえ、「老い」を文化的に構成されるものとしてとらえ、そこから可能になる種々の「老い」の姿の選択と社会的「老い」のイデオロギーとの緊張関係をいう概念である。本研究は日本で初めてこの概念を提唱し、さらに論文集『アメリカ文学における老いの政治学』の刊行によって、学会に大きな影響を与えた。

研究成果の概要（英文）： The aim of this project was to establish the politics of aging in the study of American Literature in Japan.

The politics of aging is based on the new understanding of aging proposed by American feminists in 1990s. This new view holds that aging is not a natural phenomenon but in fact constituted by social ideology. This view brings about new dimensions of aging where we have multiple choices of the way of our aging. However, these choices are not available in the free private space but always in the political field of social discourse. Hence the importance of the idea of politics of aging, by which we can make clear just this political nature of aging.

The idea is also useful for providing a new insight to the study of American Literature. By focusing on how characters reflect the political nature of aging or the way authors decide their own way of aging, the idea of politics of aging brings forth new field in the study of American Literature.

The most important achievement of our project is a book we published in 2012, *The Politics of Aging in American Literature* (In Japanese. Ed. Satoshi Kanazawa. Kyoto: Shorai-sha, 2012). In this book we collect ten papers, each of which sheds a new light on some works of modern American Literature by focusing various aspects of aging reflected in these works. This is really an important step to establish the politics of aging in American Literature Study in Japan and invigorate the academic field by introducing the new point of argument. Thus we have made a significant achievement by this project.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	900,000	270,000	1,170,000
2011年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2012年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	2,900,000	870,000	3,770,000

研究分野： 人文学

科研費の分科・細目： 文学、英米・英語圏文学

キーワード： 米文学

1. 研究開始当初の背景

当時、日本におけるアメリカ文学研究において「老い」に注目するものはまったくなく、この分野は未開拓であった。一方、アメリカにおいては1990年代からフェミニストの立場から「老い」をジェンダーになぞらえて理解しようとする新しい立場が提唱されていた。また、それとは別にミシェル・フーコーやエドワード・サイードによって「老い」と関連する重要な論考が発表されていた。このような情勢の下、文学研究においても新たな「老い」の概念およびそれに基づく具体的な作品・作家研究が求められていた。

2. 研究の目的

上記の背景を踏まえ、1990年代からアメリカにおいて提唱されるようになった新たな「老い」概念を日本のアメリカ文学研究に導入し、「老いの政治学」概念を打ち立てるとともに、アメリカ文学研究に新たな領域を切り開くことを目指した。

3. 研究の方法

本研究はアメリカ文学における「老い」の重要性に注目し、「老い」が各作家にどのような影響を与えるか、また各作家が「老い」表象をいかに活用しどのような効果を上げているかを検討することによって、文学研究における新たな視点である「老いの政治学」の確立を目指したものである。

また「老い」という視点からの新たな文学研究の可能性をも提示しようとしたものであり、その意味でも独創的なものであった。

具体的な方法としては、まず作家の伝記的事実に注目し、高齢期に入った作家が自らの「老い」をどのように意識し、その意識をどのように作品で表現したかを探る方法がある。その際、作家の「老い」意識をジェンダー観や時代のディスコースとの関連から分析することによって、従来の伝記研究とは異

なる「老いの政治学」の観点からの研究が可能になる。

もう一つの重要な方法は、文学作品中に登場する「老人」像に注目し、そのあり方や機能を分析することである。これによって、作者とは独立した形で、多様な「老い」のあり方の可能性を探ることができる。

最後に、文学作品の技法に注目し、いわば「ジャンル」の「老い」という問題を考えることができる。サイードによればモダニズムの技法とは文学における「レイト・スタイル」に属するものである。またポストモダン作品に多用されるパロディとは、小説というジャンルにおける「老い」の技法だと見なすことができる。このような観点から文学作品の技法を分析することは、「老いの政治学」に基づく新たな文学研究の道を切り開くものである。

4. 研究成果

三年間の具体的な成果としては、平成24年3月に金澤哲編著『アメリカ文学における老いの政治学』（松籟社）を刊行した。本書には研究代表者である金澤が「老いの政治学」の可能性を概観した「序論」およびユードラ・ウェルティにおける「老い」の戦略を検討した論文を執筆したほか、研究分担者全員が執筆し、それぞれイーディス・ウォートン晩年の幽霊物語における「過去の声」＝記憶のあり方について（石塚）、ヘミングウェイ『老人と海』における「老いのスペクタクル」と冷戦期アメリカの関係について（塚田）、ジョン・アプダイクの作品に見る「老い」理解の成長と「死」の受容について（柏原）、詳細に論じている。

上記論考の他、本研究の趣旨に賛同した6名による論文を揃えた本書は、「老い」という視点から主に20世紀アメリカ文学に属する作家・作品を初めて本格的に論じたもので

あり、「老いの政治学」の確立と「老い」の視点からによる新たな文学研究の可能性について、具体的な成果を示すことによって学会に大きなインパクトを与えることができた。

また、最終年度である平成 24 年度には、上記の成果を踏まえ「アメリカ文学における老いの政治学」確立のために必要な研究の拡大と深化の方向について検討した。上記書の合評会（平成 24 年 5 月、同志社大学）や定期的な意見交換の結果、(1) 特定の作家を対象を限定し、作家の全作品を視野に「老いの表象」と作家個人の「老い」との関連性を系統的に検討する、(2) モダニズムを対象とし、文学のみならずメディア論や身体論の視点を導入することによって学際的な「老い」研究を追求する、という方向性を見いだすことができた。

このような活動を通じて、本研究は日本におけるアメリカ文学研究において「老いの政治学」の概念を確立させるとともに、「老い」の視点からによる新たなアメリカ文学研究の可能性を切り開くことに成功し、大きな成果を上げることができた。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 3 件)

- ① 金澤哲、「ハリーの逃走：“The Wild Palms”におけるペン／ペニス」、*コルヌコピア*、査読有、22/23、2013、39～55。
- ② 石塚則子、「オールド・ニューヨークの亡霊—イーディス・ウォートンの「ホルバインにならって」」、*同志社大学英語英文学研究*、査読有、86/87、2010、27～52。
- ③ 金澤哲、「「男たち」の『寓話』——「馬泥棒に関する覚え書き」を読む」*ALBION*、査読有、56、2010、87～101。

[学会発表] (計 4 件)

- ① 塚田幸光、「Framing Desire/Hemingway—四角、斜線、視線—」、日本ヘミングウェイ協会第21回全国大会シンポジウム「ヘミングウェイと映画」、2010/12/25、関東学院大学。
- ② 塚田幸光、「Becoming/Framing Soldiers—ハスフォード、キューブリック、『フルメタル・ジャケット』—」、日本英文学会関西支部第5回大会シンポジウム「英米文学と映像」、2010/12/18、大阪市立大学。
- ③ 塚田幸光、「Caribbean Blood Cross: Eating and Body Politics in Ernest Hemingway's *The Old Man and the Sea*」、The 2nd ASLE-Korea and ASLE-Japan Joint-Symposium on Litera-

ture and Environment / Ecology, Consumption, and Otherness、2010/10/10、Sungkyunkwan University.

- ④ 柏原和子、「Accepting Aging in an Ageist Society: "Aging" in John Updike's Fiction from *Rabbit, Run* to the Later Short Stories」、The First Biennial John Updike Society Conference、2010/10/3、Alvernia University.

[図書] (計 3 件)

- ① 塚田幸光、他、ミネルヴァ書房、『交錯する映画 アニメ・映画・文学』、2013、324。
- ② 金澤哲 (編著者)、柏原和子、石塚則子、塚田幸光、他、松籟社、『アメリカ文学における「老い」の政治学』、2012、315。
- ③ 塚田幸光、他、ミネルヴァ書房、『映画とネイション』、2010、296。

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況 (計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

[その他]

ホームページ等  
なし

#### 6. 研究組織

(1) 研究代表者  
金澤 哲 (KANAZAWA SATOSHI)  
京都府立大学・文学部・教授

研究者番号：70233848

(2) 研究分担者

柏原 和子 (KASHIHARA KAZUKO)  
関西外国語大学・外国語学部・教授  
研究者番号：90330216

石塚 則子 (ISHIDUKA NORIKO)  
同志社大学・文学部・教授  
研究者番号：80257790

塚田 幸光 (TSUKADA YUKIHIRO)  
関西学院大学・法学部・教授  
研究者番号：40513908

(3)連携研究者  
なし ( )

研究者番号：